

【第1号議案】

2022年度会務総括報告

2022年度事業ならびに会務運営は、2021年度第6回理事会において承認（2022年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

第78回総会学術大会は、昨年に引き続き開催前の2022年2月にピークを迎えたCOVID-19第6波の影響により、一時は現地開催が危ぶまれたが、3月末に蔓延防止等重点措置が全面解除され、予定通り横浜での現地開催と約1か月間のオンデマンド配信を成功裡に実施した。参加登録者数（4,226人）は前年比約6%と微増であったが、現地参加者数（2,096人）は前年比で172%となり、数年ぶりに会場に人が溢れる光景を見ることができた。International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) には、JSRTとJSPMを合わせて107題の一般演題発表があり、会場では英語での質疑応答が活発に行われる場面も散見され、今後の発展が大いに期待できる内容となった。国際的な学術連携について、中華医学会影像技術学会（中華人民共和国）、大韓放射線科学会（大韓民国）や中華民国醫事放射學會（台湾）とは対面での交流は果たせなかったが、タイ医学物理学会（タイ王国）は、唯一第14回学術大会に招待され対面での交流を果たすことができた。COVID-19による影響を気にせず活発に交流できる日が早く来ることを願ってやまない。

医療技術等国際展開推進事業（厚生労働省）の助成を得て、ラオス大使館、ラオス保健相などとの連携のなかで進めている「ラオスにおける放射線医療機器の品質・安全管理技術の向上を目的とした技術研修」事業は、University of Health Sciences, Lao PDRの協力のもとオンデマンド講義やオンライン研修を実施し、現地の教員と医療機関に従事する診療放射線技師に対して、診療放射線技師養成と医用機器の品質・安全管理に係る知識向上のための基盤づくりをおこなった。本事業には現地から継続の要請があることから、次年度も事業を継続する方針で準備をしている。

国内の関連団体との学術連携については、昨年度に発足した放射線診療4団体連絡協議会を中心として、All Japan Radiologyで国民に放射線診療の重要性と適切な利用についての広報の手段として、日本医学総会2023東京博覧会における展示と第7回国際放射線防護委員会(ICRP)国際シンポジウムでのイベントを共同開催することを決定した。また、日本循環器学会ならびに日本放射線看護学会とは、進展の兆しを感じながら学術交流事業を展開した。日本診療放射線技師会とは、それぞれの法人で特色のある放射線技術学／臨床応用の分野での活動を明確に区別しつつ、共通目的の領域での具体的な連携を進めている。

2022年度末の正会員数は16,144名であり、2021年度末の正会員数と比べて減少（270名）となった。また、昨年度に引き続いて新型コロナ状況下における教育支援を目的として、年会費を無償とした学生会員は1,599名となり、前年度と同様に高い水準を維持した。

2021年度に引き続いてのコロナ禍にもかかわらず、会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会一丸となって事業を執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2022年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 総会学術大会の開催

第78回総会学術大会は、パシフィコ横浜にて白石順二大会長のもと2022年4月14日（木）～17日（日）の4日間、対面開催を行った。また、対面開催に引き続き、2022年5月18日（水）まで、約1月間にわたりオンデマンド開催を行った。一般研究発表演題は326題、参加登録者数は4,226名であった。

第79回総会学術大会は2023年4月13日（木）～16日（日）の4日間、市田隆雄大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

2) 秋季学術大会の開催

第50回秋季学術大会は、両国KFCホール（東京都墨田区）にて飯田紀世一大会長のもと2022年10月7日（金）～9日（日）の3日間開催した。さらに、2022年10月22日（土）～11月19日（土）の約3週間はオンデマンドで開催した。一般研究発表演題は260題、参加登録者数は2,048名であった。

第51回秋季学術大会を2023年10月27日（金）～29日（日）の3日間、小山修司大会長のもと名古屋国際会議場（名古屋市）で開催すべく準備を進めた。

3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの部会が総会学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。さらに、教育委員会、専門部会、地方支部の共催でセミナーを開催した。各部会の開催内容を以下に示す。

画像部会は、臨床画像評価セミナー、医用画像プログラミングセミナーとDRセミナーを開催した。

核医学部会は、核医学画像セミナー、核医学技術研修会と3回の核医学オンラインジャーナルクラブを開催した。

放射線治療部会は、2回の放射線治療セミナーを開催した。

撮影部会は、3回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー、CT 応用セミナー、MRI 安全管理セミナーを開催した。

計測部会は、簡易線量計製作セミナーとサーベイメータ活用セミナーを開催した。

放射線防護部会は、2回の放射線影響と防護量の考え方を学ぶWebセミナーと“伝わる”医療被ばく相談実践セミナーを開催した。

医療情報部会は、2回のPACS SpecialistセミナーとPACS ベーシックセミナー、2022年度医療情報 Webinar を開催した。

4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の学術大会ならびに支部事業を開催した。

- ① 北海道支部： 北海道支部第78回春季大会、北海道支部第78回秋季大会
- ② 東北支部： 東北支部第60回学術大会、学術講演会やセミナーなど9回
- ③ 関東支部： 第69回関東支部研究発表大会、学術講演会や研究会を19回
- ④ 東京支部： 第76回東京支部春期学術大会、技術フォーラムやセミナーなど29回
- ⑤ 中部支部： 第56回中部支部学術大会、学術や技術セミナーなど19回
- ⑥ 近畿支部： 第66回近畿支部学術大会、勉強会やセミナーなど14回
- ⑦ 中国・四国支部： 第63回中国・四国支部学術大会、夏季学術大会やセミナーなど10回
- ⑧ 九州支部： 第71回九州支部学術大会、コミュニティやセミナーなど18回

5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした2022年度市民公開講座は第50回秋季学術大会（両国KFCホール：東京都墨田区）最終日に「放射線を駆使したがん検診の最前線」をテーマに開催し107名が参加した。

2022年度市民公開シンポジウム「肺がんを見逃さない～画像診断に役立つ放射線技術～」は、京都テルサ（京都市）を会場として、後日、2022年12月15日から1か月間に渡ってオンデマンド配信した。参加者は32名であった。2022年度JSRT-JART合同市民公開講座「いま港町神戸から発信 多職種で考える日本の現状高齢化社会での脳卒中」を神戸コンベンションセンター（神戸市）にて開催し、参加者は96名であった。

6) フォーラムの開催

広報、啓発を目的として第78回総会学術大会時に、放射線防護委員会は放射線防護部会と共同で放射線防護フォーラム、標準・規格委員会は標準化フォーラム、関係法令委員会はJSMP放射線防護委員会と共催で放射線管理フォーラム、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。また、第50回秋季学術大会時には、放射線防護委員会は放射線防護フォーラム、標準・規格委員会は標準化フォーラム、関係法令委員会は放射線管理フォーラム、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌の発行

学会誌第78巻1号～第78巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。2022年1月～12月で掲載論文数が73編（昨年63編）となった。

2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第 15 巻第 1 号 (3 月)、第 2 号 (6 月)、第 3 号 (9 月)、第 4 号 (12 月) を発刊した。掲載論文数の合計は 36 編 (昨年 48 編) となった。

3) 出版活動

放射線医療技術学叢書は撮影部会の乳房撮影ガイドライン普及班より叢書 (39) 「乳房撮影精度管理マニュアル」を新刊として 2 月に発刊した。

放射線技術学シリーズは、「CT 撮影技術学 (改訂 4 版)」「核医学検査技術学 (改訂 4 版)」「放射線安全管理学 (改訂 3 版)」を発行した。また、放射線技術学シリーズのデジタル出版が可能な契約内容に更新した。

4) 部会雑誌の発行

各部会において部会雑誌を発行した。

- ① 画像部会： Vol. 45 No. 1, No. 2
- ② 核医学部会： Vol. 43 No. 1, No. 2
- ③ 治療部会： Vol. 36 No. 1, No. 2
- ④ 撮影部会： Vol. 30 No. 1, No. 2
- ⑤ 計測部会： Vol. 30 No. 1, No. 2
- ⑥ 放射線防護部会 Vol. 22 No. 1, No. 2
- ⑦ 医療情報部会： Vol. 20 No. 1, No. 2

5) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を発行した。

- ① 北海道支部： Vol. 92, Vol. 93
- ② 東北支部： 第 32 号
- ③ 関東支部： 25 号
- ④ 東京支部： Vol. 137
- ⑤ 中部支部： Vol. 24
- ⑥ 近畿支部： Vol. 28 No. 1, No. 2, No. 3
- ⑦ 九州支部： Vol. 21

6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ (和文) 等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公 3

新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年間の活動延長が認められた 2019-2020 年度学術研究班を含む学術研究班 13 班を編成して学術活動を行った。各編成班は、コロナ禍の影響を受け、当初の活動計画の縮小を余儀なくされ、学術研究班のうち 2019-2020 年度班から 1 班、2020-2021 年度班から 1 班の 1 年間活動期間延長が承認された。

第 78 回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」9 講座、「専門編」6 講座ならびに、教育講座を 2 講座開催した。また、第 50 回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」9 講座、「専門編」6 講座ならびに、教育関連のシンポジウムおよび講座を開催した。さらに、4 つの e-learning コンテンツを作成して、学会の動画チャンネルに掲載した。

4. 研究奨励事業；公 4

2022 年度表彰は、表彰規程に基づき、2022 年度の三賞、学術業績賞、研究奨励賞、国際貢献賞の選考・推薦を行った。

また、各支部において表彰を行った。

- ① 東北支部： 学術奨励賞 3 名、若手奨励賞 1 名
- ② 関東支部： 功労賞 1 名、新人賞 8 名、支部長賞 1 件、養成校学部卒業生優秀賞 7 校

- ③ 東京支部： 学術奨励賞 1 名，新人研究奨励賞 8 名，Research Award 2 名
- ④ 中部支部： 功労賞 1 名，奨励賞 11 名
- ⑤ 近畿支部： 功労賞 1 名
- ⑥ 中国・四国支部：功労賞 2 名，奨励賞 6 名
- ⑦ 九州支部： 支部功労賞 1 名，支部研究奨励賞 2 名，支部論文化奨励賞 5 名，支部特別賞 1 名，学生優秀賞 5 名

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

- (1) JRC 理事会に役員を 6 名派遣し，学術大会開催企画に積極的に参画した。
- (2) 一般社団法人 日本放射線看護学会に役員 4 名を連携会員として登録した。
- (3) 日本放射線看護協会（RNSJ）と共同研究を行い論文化した。テーマ「医療機関における放射線業務従事者に対する放射線防護・安全教育の実態調査」
 - ① 「放射線防護・安全教育の実態と課題」RNSJ 会誌掲載
 - ② 「病院所属の放射線業務従事者に対する放射線防護・安全教育の実態」（JSRT に投稿予定）
- (4) 標準・規格委員会活動として，JIRA，日本 IHE 協会，DICOM 委員会と協力し 4 つの JIS 原案作成分科会班を追加し JIS の制定・改正作業に参画した。
- (5) 関連学協会への委員の派遣や共催・後援を積極的に行い情報交換や人的交流の促進に努めた。
- (6) 公益社団法人 日本医学物理学会と 2 回の懇談会を開催した。
- (7) 公益社団法人 日本診療放射線技師会と 2 回の懇談会を開催した。2024 年に合同学術大会を行うことで合意した。

2) 海外

世界的なコロナ禍の影響が薄らいで社会活動が徐々に再開されるようになった頃に開催された RSNA（1 名），ECR（1 名）へ派遣した。また，海外短期留学（スタンフォード大学）に関して 1 名承認したが，後日辞退した。

本会および交流のある学会のうち，中華医学会影像技術学会（CSIT）第 30 回大会，大韓放射線科学会（KSRS）春季学術大会及び中華民国醫事放射學會（TWSRT）第 55 回大会には，代表理事のビデオレターと抄録を送付する形で交流を継続した。タイ医学物理学会（TMPS）は，The 14th Annual Scientific Meeting へ代表理事が参加して，COVID-19 の影響で滞っていた学術協定の更新を執り行った。人的交流が可能になれば，順次学術協定の更新を進めたいと考えている。